西巌殿寺の役割

西巌殿寺は千年をゆうに超える昔から阿蘇地域の暮らしに重要な役割を果たしてきました。現在も、阿蘇市にある西巌殿寺の本院の住職は毎朝山を登ってここを訪れ、本尊である十一面観音にお経を上げています。

この儀式の目的は阿蘇山の噴火を防ぐことです。阿蘇山が噴出する煙や灰は、田んぼの稲や山腹で草を食む牛に危害を与え、飲用水を汚染します。

また、住職は観音に参拝者の願い事に応えてくれるようお願いします。これらの願い事は、寺院の入り口に束になって吊るされた色とりどりの細長い布に書かれています。それぞれの色は特定のテーマを表しています：白は厄除け、黄色は商売繁盛、緑は試験合格、紫は病気回復、赤は恋愛成就です。

阿蘇市の西巌殿寺本院に残るユニークな儀式のひとつが、火渡り神事です。毎年春、寺の僧侶たちは、枝や「護摩木」という祈りが書かれた平らな木片からなる長さ数メートルの燃える道を歩いて渡ります。